

漢方×ロ×モ

その7 「コロナ対策に漢方薬が活用できること」

コロナの専門家の一部の先生はコロナウイルスが正体不明であると言いために徹底的に封じ込める敵を「ワクチン接種と自粛(ロックダウンも含め)」を強いることしか、うけとめていない。

本当にその方がいいのか。コロナの身にならないうちに、考えてみよう。コロナはヒトが外界との境界として皮膚・粘膜をのりこえ、その人の身体をつかのように弱点をみつけ、奥深くまで侵入しようとする。ヒトの抵抗力が強ければ、一層サイトカインストームを起して死んでくる。コロナはヒトのプライドと思う急所を落とし知るところのように、そこをついてくるため、人は自分に向き合わざるを得なくなる。体力・気力を落とし、調和体である自分のバランス崩壊をいかに防ぐことが、内側から起ります。

コロナを敵として対抗するだけでなく自分の心身をいかに守る必要がある。エネルギーの場として活性化することが大切。そこに漢方薬や漢方の知恵が役立つと漢方専門医としておすすめしたい。

1. 予備薬として自分の心身がりの根としての体質カンボがある。
万病の原として活用できるものです。コロナにともなう健康の人を無症状の陽性・陰性にかかわらず、役立つとされるでしょう。

2. コロナ陽性者の直接治療薬としても役立つものがあります

① 発熱し軽症者とされれば、90パーセントは抗生剤をのりこむだけの治療は治らないだけでなく、ウイルスを刺激するだけにはなる事も多い。ウイルスに抗生剤無効はよく知られるところ。漢方の解毒薬(葛根湯はめ)は産熱薬である人の体質(抵抗力)により、十分に発熱(熱に弱いのがウイルスの唯一の弱点)できると、自然に発熱解熱するもの。それにより、軽症のうちに治すことで重症化防止の効果が期待される。

② またある漢方薬には、サイトカインストームを起すのを防ぐ働きをもつものも知られている。これが必要とされる場合に治療薬を引けば、役立つとされる助け薬となるものも知られている。

③ 後遺症もつ方に体質・症状に沿った漢方対策もある。

3. コロナにワクチン接種されたことで副反応の強さや後遺症を心配される方も多いが、それらの対策法もある。

① 痛ければ例えはよくコロナ罹患者と類似した症状に長く悩む方

② ワクチン接種前から体調のゆるさ(脳神経系がボロボロする人も多い)を予防しておくことの助ける漢方薬も用意できる。

③ ワクチンによる抗体価が早くおちてしまう事もあて、漢方薬との併用で免疫力保持の助けとすることも考えうる。

(付) ツボマツルシの知恵も役立ちます。

院長